

## 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 24 年 5 月 10 日現在

機関番号：32682

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820063

研究課題名（和文） 古代日本文学における「交易」の研究—日本海地域を中心に

研究課題名（英文） A Study of Trade in Old Japanese Literature  
:Focus on the Coast of the Japan Sea

研究代表者

堂野前 彰子 (DONOMAE AKIKO)

明治大学・文学部・講師

研究者番号：50588770

研究成果の概要（和文）：韓半島との関係が深い日本海周辺地域に限定し、(1)文献研究と(2)フィールド調査を行うことから、日本海を利用した交易の様相を総合的に捉えることを試み、渡来人の移動とも重なる古代の「交易」ルートを解明することにより、古代日本文学や当該地域の寺社縁起譚、民間伝承等の新しい解釈を行った。また比較研究として琉球説話集『遺老説伝』や韓国仏教説話集『三国遺事』の研究に取り組み、「交易」の視点を導入した解釈や研究方法を提示した。

研究成果の概要（英文）：I tried to get an whole picture of trading in the Sea of Japan coast which had a deep relation with a South Korean peninsula, taking two methods as below.

(1)A study of Old Japanese Literature

(2)A fieldwork of coast of the Japan Sea

I interpreted the old Japanese literature, folktales, and the history of buddhist temples and shinto shrines by making clear the ancient trading route overlaped with that of migration from the Korean Peninsula. Also studied 'Tou-sethuden'(the narrative of Ryukyu) and 'Sangoku-iji' (the Buddhist story of Korea) in parallel, and I presented the new interpretation and method of study introducing angles of 'trade'.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,210,000	363,000	1,573,000
2011年度	1,110,000	333,000	1,443,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,320,000	696,000	3,016,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学 日本文学

キーワード：交易 日本海 河川 移住 渡来人 古代日本文学

## 1. 研究開始当初の背景

人が生の営みを始めたその時よりモノの交換は行われ、それによって人と人との間の関係が築かれてきた。古典的位置をしめるマルセル・モースの『贈与論』やカール・ポランニーの『経済人類学』においても「交換」

という概念は重要視され、「交換」の原理に基づく「交易」についての研究は、文化人類学の分野では多くの業績がだされている。考古学・歴史学の分野でもその研究は進んでいる。しかし、文学分野ではいまだ方法論的に包摂する視点が出来ていない。

このように、貨幣経済が展開する以前の文学の分野において、「交易」という分析視点が取り上げられることは稀であり、しかも断片的であってトータルな研究がなされることはなかった。『魏志』倭人伝に交易という言葉は登場するものの、古代日本の文学作品においてその様相が具体的に描かれることがほとんどないため、文学作品を分析するだけでは「交易」を知ることは極めて困難だからである。

しかし「交換」とは、単なるモノの交換にあらず、それによって人と人との関係を築くことであって、「交換」の原理は宗教や信仰をはじめ神話とも無縁ではない。ましてや「交換」することによって変化が生じ世界が活性化されていくのであれば、世界解釈でもある神話や文学において、「交換」の原理抜きにしての作品研究はありえない。そこで「交換」の原理を導入することで文学作品の解釈がラディカルに深化するという着想に至った。

## 2. 研究の目的

今まで古代文学の分野では積極的にはなされてこなかった「交易（交換）」に関する研究を、民俗学、文化人類学、考古学、歴史学などの手法・研究成果を取り入れ、複合的・総合的に行うことによって以下の二点を明らかにすること研究の目的とした。

(1)東シナ海沿岸地域の神話や文学作品の中で「交易（交換）」がどのように描かれているのかを明らかにする。

(2)交易によってもたらされたと思われる民間信仰・民俗習慣の分布（類似及び差異）状況の分析を行う。

そのための第一歩として、本研究では対韓半島・高麗（渤海）を交易相手国としていた対馬及び山陰～北陸にかけての地域に限定し、①文献研究と②フィールド調査を行い、③「交易（交換）」の視点を導入することにより古代日本文学（記紀風土記・万葉集）や当該地域の寺社縁起譚や民間伝承を新しく解釈する。尚、日本海沿岸の中でも、古代文献に多く登場し、水上交通の要衝でもある対馬、出雲及び小浜を主なフィールド調査地としたのは、その地域に記紀神話をモデルとした神事が残されているからでもある。

さらに①～③の調査や研究を通じて、日本のみならず、韓半島や大陸をも視野に入れた、東シナ海の交易の様相を明らかにし、学際的かつ国際的な研究を展開することを目指した。

また、民俗学、文化人類学、考古学、歴史学などの手法・研究成果を取り入れた、分野を横断する研究方法を提示することも本研究の目的とした。

## 3. 研究の方法

サブテーマとして(1)日本海周辺地域の文献研究、(2)当該地域のフィールド調査をそれぞれ設定して、並行して進めるものとした。調査対象地域としては対馬と山陰～北陸にかけての地域及び韓国を取り上げ、なかでも対馬、出雲、小浜・敦賀(気比)をその中心とした。何故なら、それらの地域の調査研究により、日本における韓半島との交易の様相を明らかにできると考えたからである。

### (1)文献研究

当該地域に関する文献（『風土記』、『万葉集』、『楽郊紀聞』、寺社縁起など）の注釈研究を行い、それら文献中の神話・伝承の背後に隠されている「交易」を読み解く。

また、比較対象として、中世から近世にかけての資料ではあるが、古代的要素を持つ琉球説話集『遺老説伝』と韓国仏教説話集『三国遺事』の研究も並行して行う。

### (2)フィールド調査

当該地域を訪問することによって①文献には描かれていない交易風土を検証し、と同時に、②現地でしか入手できない資料の収集を積極的に行う。今までにも両地域の調査は行っており、その地域がどのような地理的環境・風土にあるかは十分理解しているため、今回は③祭りの調査及び聞き書き調査に重点をおき、文献資料からは得られない伝承や民間信仰・民俗習慣についての情報収集に努める。

### (3)サブテーマ研究成果のインテグレート（最終年度のみ）

上記二つの研究成果を統合することにより、対韓半島の古代交易の様相を明らかにし、「交易」の視点を導入することによって古代日本文学を新しく解釈する。

つまり本研究は、古代日本文学には描かれていない、あるいはその背後にある「交易」の様相をフィールド調査の成果によって補い説明することであり、それは現存していない地域の『風土記』の復元でもあった。

## 4. 研究成果

韓半島との関係を視野に入れて(1)文献研究と(2)フィールド調査を行い、二年間の調査研究の成果から、(3)日本海交易の様相を総合的に捉えることを試みた。東日本大震災の影響により民俗調査を主とするフィールド調査を予定通り行うことは難しく、民間伝承や民間信仰がどのように分布しているのか、その分布図を作成するには至らなかったが、韓半島との間に浮かぶ壱岐・対馬や隠岐、あるいは北部九州や伯耆、丹後、小浜などの調査から、歴史時代以前の交流や交易の様相を想定することができ、古代日本文学や寺社に伝わる民間伝承を新しく解釈することができた。

フィールド調査を踏まえた研究の成果を具体的に示すと、

①今までは豪族の没落伝承としてのみ解釈されてきた「餅の的伝承」（『豊後国風土記』『山城国風土記』逸文）を、秦氏が稲を各地に伝えながら移住していった物語として解釈することができるとし、稲作農耕民は決して定住民ではなく、移住に注目することが「交易」を考える上で有効であることを指摘した。

②小浜お水送り神事の調査をヒントに、日本海から琵琶湖を經由して山代へと到る水上交通の道を『古事記』の中に見出し、その背後には日本海水上交通に長けた渡来人の姿があることを指摘した。さらにその琵琶湖經由の水上ルートは、鉄をめぐる交易と深く関わっていたことを示した。

③奈良の都と大宰府を結ぶ「豊前路」は、官人たちが移動するために整備された官道ではあるが、それ以前にも韓半島からの文化伝播を担っていた交易ルートであり、そのような「豊前路」に注目することによって、山上憶良の渡来人としての側面が明らかになるとした。また、その「豊前路」は、神功皇后の新羅征伐のルートや仏教伝播の道と重なることにも言及した。

④伯耆国に分布する楽々福神社の鬼伝承を宮司への聞き書き調査などによって収集し、吉備の鬼伝承や金屋子神との関係に注目して、中国地方の「鉄」をめぐる交易の様相を明らかにした。さらにその鬼伝承の分布は、記紀に描かれた四道将軍の征伐ルートと一致することも指摘した。

このように日本海潮流や河川を利用した水上交通及び古代街道に注目し、「交易」の視点を導入した古代文学や民間伝承の新解釈を試みると同時に、伝承や神話でさえ「交易」の対象になることを示し、新しい文学解釈の方法を提示した。

また、複眼的に行った琉球説話集『遺老説伝』の研究においても、兄妹始祖譚から人々の移住を導き、移住からさらに交易が発展したことを中国南通大学における学会発表で指摘したり、「交易」の視点を導入することにより、聖地としての御嶽の中にも「市」的な機能があるという新しい解釈を奄美沖縄民間文芸学会における発表で提示したりした。

あるいは韓国延世大学における国際学会では、「夢」が登場する『三国遺事』の伝承に、『遠野物語』や『古事記』の類話との比較から導いた「交換」の原理を援用して新しい解釈を加え、そのような「交易」の視点導入による斬新な解釈は、比較文学研究においても有効であることを示した。二度の国際学会での発表により、韓国の説話研究者との国際交流を深めることができたことも大きな

成果の一つであった。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

①堂野前彰子（共著）『『遺老説伝』注釈（9）—巻第一 第六〇話～第二第六六話—六〇話担当、『文学研究論集』33、明治大学大学院文学研究科、2010年9月、p.205-208、査読有

②堂野前彰子「古代日本文学における「墓」—その形見としての機能—」、『文芸研究』112、明治大学文学部、2010年10月、pp.81-92、査読有

③堂野前彰子「境界を越えていく女—『万葉集』を中心に—」、『日本古代学』3、明治大学古代学教育・研究センター、2011年3月

④堂野前彰子「琉球説話集『遺老説伝』の世界—「移住」と「交易」—」、『淵民學志』第16輯、韓国延世大学、2011年8月20日、pp.49-92、査読有

⑤堂野前彰子「『古事記』と交易の道—小浜神宮寺「お水送り」から—」、『文芸研究』115、明治大学文学部、2011年10月29日、査読有、pp.35-54

⑥堂野前彰子（共著）『『遺老説伝』注釈（10）—巻第二 第六七話～第七二話—七一・七二話担当、『文学研究論集』33、明治大学大学院文学研究科、2012年2月、pp.199-205、査読有

⑦堂野前彰子「豊前路と憶良—嘉摩郡三部作を中心に—」、『日本古代学』第4号、明治大学日本古代学教育・研究センター、2012年3月20日、pp.37-48 査読有

⑧堂野前彰子「『遺老説伝』に描かれた御嶽—その「市」的な機能—」、『奄美沖縄民間文芸学』11、2012年3月26日、pp.23-32、査読有

⑨堂野前彰子「鉄をめぐる古代交易の様相—楽々福神社鬼伝承を中心に—」、『文化継承学論集』第8号、明治大学大学院文学研究科、2012年3月26日、pp.13-22、査読有

⑩堂野前彰子「狂女のいる風景—柳田国男と久世光彦—」、『文芸研究』第117号、明治大学文学部、2012年3月26日、pp.38-44、査読無

〔学会発表〕（計 4 件）

①堂野前彰子「『遺老説伝』に描かれた「嶽」—その発生から機能を考える—」、奄美沖縄民間文芸学会大会、2010年9月23日

②堂野前彰子「移動する神と人—風土記を中心に—」、日本古代学教育・研究センター主宰国際学術会議「交響する古代」、2010年11月4日、於明治大学駿河台キャンパス

③堂野前彰子「琉球説話集『遺老説伝』の世界―「移住」と「往来」―」、東亜文化交流国際学術会議（共同主催：中国南通大学、韓国延世大学、日本明治大学）、於中国南通大学、2011年2月17日）

④堂野前彰子「神話と夢―日韓の比較から―」東アジア文化交流国際学術大会（於韓国延世大学、2011年7月30日）

〔図書〕（計1件）

①堂野前彰子「移動する神と人―風土記を中心―」、(吉村武彦・日向一雅・石川日出志編)『交響する古代―東アジアの中の日本―』pp.196-213、東京堂出版 2011年3月

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

堂野前 彰子 (DONOMAE AKIKO)

明治大学・文学部・講師

研究者番号：50588770

### (2) 研究分担者

なし ( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

なし ( )

研究者番号：